

## 情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会

## 放送業務委員会（第 35 回）議事概要（案）

日時：令和元年 9 月 12 日（木）10:00～11:30

場所：総務省 8 階 第四特別会議室

出席者：

都竹主査（名城大学）、浦野専門委員（日本テレビ放送網（株））、  
大谷専門委員（東芝インフラシステムズ（株））、川口専門委員（（株）テレビ朝日）、  
中村専門委員（日本放送協会）、西田専門委員（日本放送協会）、  
日野専門委員（（株）TBS テレビ）、廣野専門委員（（株）フジテレビジョン）、  
松井専門委員（（一社）電波産業会）、吉野専門委員（NTT 未来ねっと研究所）

オブザーバー：

大出氏（日本放送協会）、甲斐氏（日本テレビ放送網（株））、薮氏（日本放送協会）、  
西本氏（日本放送協会）、三谷氏（日本放送協会）

事務局：

総務省 情報流通行政局 放送技術課

塩崎課長、木村技術企画官、梶原補佐、植田係長

【配布資料一覧】

資料 放-35-1	放送業務委員会（第 34 回）議事概要（案）
資料 放-35-2	2019 年 7 月 ITU-R SG6 関連会合報告書（案）
資料 放-35-3	<u>RA への対処（SG6 関連）（案）</u>
資料 放-35-4	今後の検討スケジュール（案）
参考資料 1	放送業務委員会構成員名簿
参考資料 2	放送業務 WG 構成員名簿

※下線部の資料は構成員及び関係者限り。

## 議事概要

### 1. 配布資料の確認

事務局より、配布資料の確認が行われた。

### 2. 前回議事概要の確認

都竹主査より、資料 放-35-1『放送業務委員会（第34回）議事概要（案）』に基づき、第34回放送業務委員会の議事概要案が確認された。議事概要案について構成員からの意見はなく、案のとおり総務省 HP に掲載することとなった。

### 3. ITU-R SG6 関連会合の結果について

#### 3.1. WP6A 会合の結果について

薮氏より、資料 放-35-2-1『2019年7月 ITU-R SG6 WP6A 報告書（案）』に基づき、WP6A 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

都竹主査：第二世代地デジ方式の勧告に ATSC3.0 と DTMB-A が追記されたとのことだが、第一世代地デジ方式の勧告に含まれていた DTMB-A は削除されたのか。

薮氏：第二世代として承認され次第、第一世代からは削除することになっている。

都竹主査：DTMB-A は最近になってできた方式であり、第一世代の勧告に含まれると他と比較して性能が良いように見えるため、中国は第一世代であると主張していた記憶があるが、今回はそういった主張はなかったのか。

薮氏：今回は、中国からの提案である。

都竹主査：最近の動向を見て、中国はそのほうが良いと判断したものと理解した。

薮氏：野外実験等を通じ、第二世代として使えるものであると確認できた、と聞いている。

大谷専門委員：日本の次世代地デジ方式について、名前を決めた方が効果的だと思うがどうか。

都竹主査：説明時には、「ISDB-T」と言っているのか。

薮氏：次世代の方式、高度化したシステム等と呼んでいる。

西田専門委員：ARIB でも同様の議論があったが、現段階では日本方式としてのコンセンサスが得られていないため、もう少し議論が進む中で明確化できればと考えている。

中村専門委員：疑似エラーフリー (QEF) が今回定義された背景は。

薮氏：EBU より、地デジに関して QEF の定義がないことを指摘する寄与文書があった。衛星放送に関する ITU 文書においては定義が定まっているため、地デジでも明確化したい旨、欧州からの提案があったもの。

都竹主査：日本国内において正確な定義はあるか。BER  $1 \times 10^{-11}$  といった数字を聞いた覚えがある。ITU では、衛星放送で用いられている定義を流用するようなことを検討しているのか。

薮 氏 : 国内で使用されている基準として BER  $1 \times 10^{(-11)}$  という値があり、欧州においても同じ値が用いられているが、ITU 上では記載がないため、「1 時間に 1 エラーイベント」として ITU 用語データベースへの登録が提案されたもの。

西田専門委員 : BER で定義するとシステムやビットレートに依存するため、今回は時間当たりのエラー率を定め、システム共通の汎用的な定義としている。

### 3.2. WP6B 会合の結果について

大出氏及び甲斐氏より、資料 放-35-2-2『2019 年 7 月 ITU-R SG6 WP6B 報告書 (案)』に基づき、WP6B 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

西田専門委員 : 音声符号化について、日本国内で AAC 以外のコーデックを放送・素材伝送等で使うことは考えられるか。諸外国では、AAC に比べ今回の MPEG-H 3DA や AC-4 が、より使用される見込みであるのか。

大出氏 : 日本ではチャンネルベースの音響方式が使用されているため、音声符号化方式として使用されているのは AAC のみかと思う。そもそも、素材伝送においては、非圧縮伝送が可能であり、圧縮が必要となるほどの大容量の音声データを送ることはあまりない。諸外国では、オブジェクトベースの音響において AC-4 等の活用が見込まれる。なお、初期は AC-4 がほとんどだったが、MPEG-H 3DA も韓国ですでに採用され、欧州でも導入が検討されている。

### 3.3. WP6C 会合の結果について

大出氏及び甲斐氏より、資料 放-35-2-3『2019 年 7 月 ITU-R SG6 WP6C 報告書 (案)』に基づき、WP6C 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

廣野専門委員 : BBC が提案した、知覚的明るさの測定基準指標 (MIL) の背景は。

甲斐氏 : シーンが変わるときに明るさが大きく変化することが、視聴者の不快感につながるのではないかという実験を行っており、その中で明るさのアルゴリズムを研究していた。今回、明るさを導出するためのアルゴリズムに関する新勧告草案と、そこから求められた明るさをメーターとする要求条件に関する作業文書が作成されたもの。なお、制作の幅を狭めるおそれがあるため、反対意見も出ている。

### 3.4. SG6 会合の結果について

三谷氏より、資料 放-35-2-4『2019 年 7 月 ITU-R SG6 報告書 (案)』に基づき、SG6 会合の結果について説明が行われた。

## 4. RA-19 に向けた対処について

事務局より、資料 放-35-3『RA への対処 (SG6 関連) (案)』に基づき、RA-19 に向けた対処方針について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

西田専門委員：本研究会期における SG6 の成果として、この資料には一部しか記載できていないが、他にも日本から寄与したものを含め、様々な勧告等が作成されている。その中で大きな成果の一つは、HDR テレビのシステムパラメータに関する勧告ができたことである。

決議案 6 件のうち、改訂の 3 件はいずれも関係する SG6 の成果物に言及する趣旨。決議 1-7 の改訂は、ITU-R 全体の文書の定義や作業の進め方に関するものだが、ここに純粋にエディトリアルな文書修正にかかる簡便な手続きを追加するもの。新規の 2 件の決議案については、IMT に関する類似の決議を放送用にアレンジしたもので、引き続き放送の発展・進展に資するため、ITU-R での放送に対する取り組みを決議という形で示したもの。

都 竹 主 査：特段ご意見がなければ、これで御承認いただいたということで良いか。

全 員：了（意見なし）

## 5. その他

事務局より、資料 放-35-4『今後のスケジュール（案）』に基づき、今後のスケジュールについて説明が行われた。

以上